


1.新技術を用いた取組

[＜事例リストに戻る＞](#)

事例番号	1-1-15		
事例名	ドライブレコーダーを用いた道路劣化 AI 診断サービス「くるみえ for Cities」		
開発会社名	日本電気株式会社(NEC)		
導入自治体名	愛知県豊田市等 51 自治体他		
導入時期	2023 年度～		
最も効果が期待される項目	巡回	他に効果が期待される項目	維持全般
取組の背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理道路が長く、住民からの要望が多い ・ 舗装の不具合については現地確認のうえ対応するが、市内広域であるため速やかな対応に苦慮している ・ 舗装劣化に伴う事故が起きる前に、未然に処置したい 		
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ くるみえ for Cities は、道路パトロール車両等にドライブレコーダーを設置し、自動で映像収集～路面の損傷(ポットホール、ひび割れ率・IRI・わだち掘れ量・MCI 等)を AI 判定～Web システムから結果を閲覧いただくことができ、道路巡視・維持管理業務をご支援するサービスである。 		
内容	<p>〔活用イメージ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路パトロール車両等にドライブレコーダーを設置 ・ 道路維持課の職員にてポットホール AI 検知結果をモニタリング ・ 危険個所があった際は、迅速に修繕対応を指示 		
取組によって得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さなポットホールも自動検知できるため、予防保全や職員の業務負担軽減に繋がっている ・ サービス面から最新の道路状況(ドラレコ画像)が確認できるため、市民問合せの対応時間の短縮に貢献 ・ 耐環境性に優れた車載器(ドラレコ)を使用しているため、常時設置が可能で、職員の手間がかからない 		
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ AI が検知したポットホールについて、対応状況(処置済、経過観察 など)を管理して活用することで、情報整理しながら日々のモニタリングや修繕指示を行うことができる。 		

苦勞した点	・ 導入当初はポットホール以外を誤検知するなどの課題もあったが、定例協議・改善サイクルを繰り返すことで改善に繋がった。
導入・運用 コスト概算額	ドラレコ台数や道路の管理延長に応じて変動します。 詳細はお問い合わせください。
その他	・NETIS 番号:KT-200004-A
連絡先	日本電気株式会社 くるみえ for Cities 担当 E-mail:infra-diagnosis@sdd.jp.nec.com

事例の導入効果	※導入目的:当初からの目的は(主)と、導入前は想定していなかったが導入後にあった効果は(副)と記載 効果:3分類(「期待通りの又は期待以上の効果あり」、「多少有り」、「効果無し」)の中から導入自治体が選択	
導入自治体	A 市	
自治体の概要	人口	20 万以上～50 万未満
	面積	500 km ² 以上～1000 km ² 未満
	道路延長	1000km 以上～5000km 未満
回答	導入目的・効果	効果
	(主) 職員の負担軽減	多少効果あり
	(主) 対応の迅速化	多少効果あり